

測量計算・電子野帳 (TS)

A-SurveyAd

Android

エース プロジェクト

2022/05

Ver3.9.8 で追加、修正された機能を説明します。

- ・ LandXML ファイルの読込
- ・ SIMA 線データの読込時の色
- ・ 中間点、拡幅一括計算を修正
- ・ 後方交會に、器械点リスト

1、LandXML ファイルの読込

要望がありましたので、対応しました。

「TIN 土量計算・計測」オプションにて
LandXML ファイルの、TIN データを読み込みます。
LandXML の TIN データなので、<Pnts>の座標と<Faces>のデータです。

<Pnts>データは、ID,X,Y,H です。
読み込み後は、「TIN 計測」、「TIN 計画高」、「ワイヤーフレーム」が出来ます。

下記のソフトの LandXML データで確認しました。

ISP GeoForm

TREND-POINT

EX-TREND 武蔵

「現場管理」に追加しました。

LandXML ファイルは、SIMA ファイルと同じフォルダにコピーしておいてください。

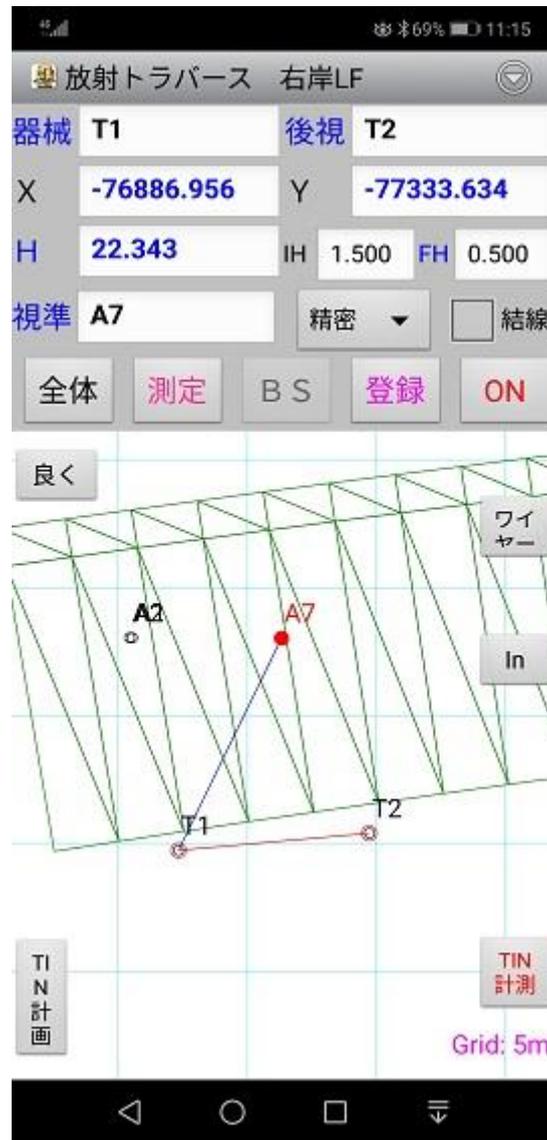
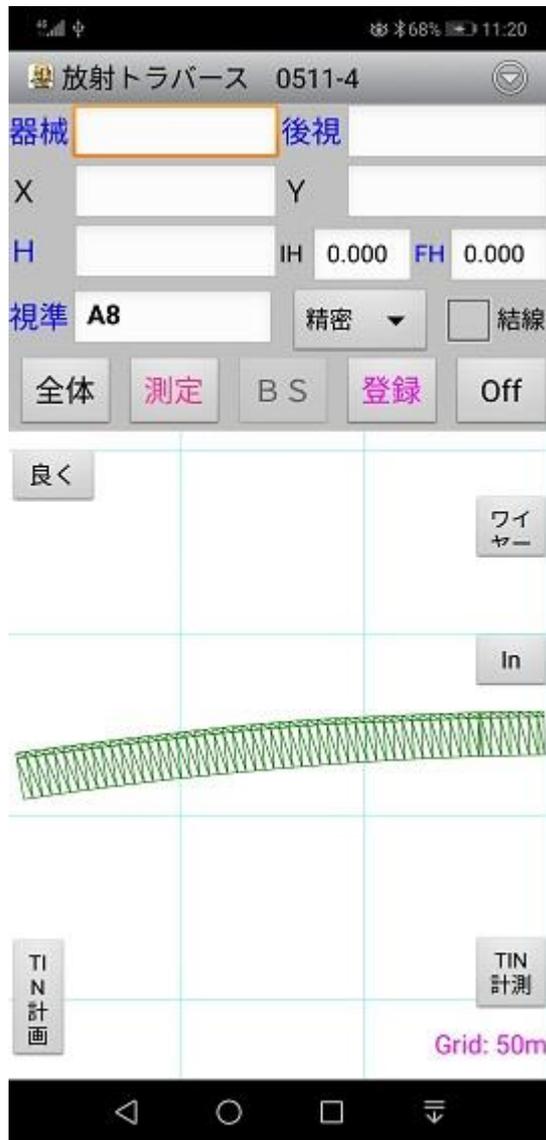
AndroidOS 4.4 以前なら、MicroSD の jp.Asurvey/SIMA フォルダです。

4.4 以降なら、内部メモリの ASurvey 測量/SIMA フォルダです。



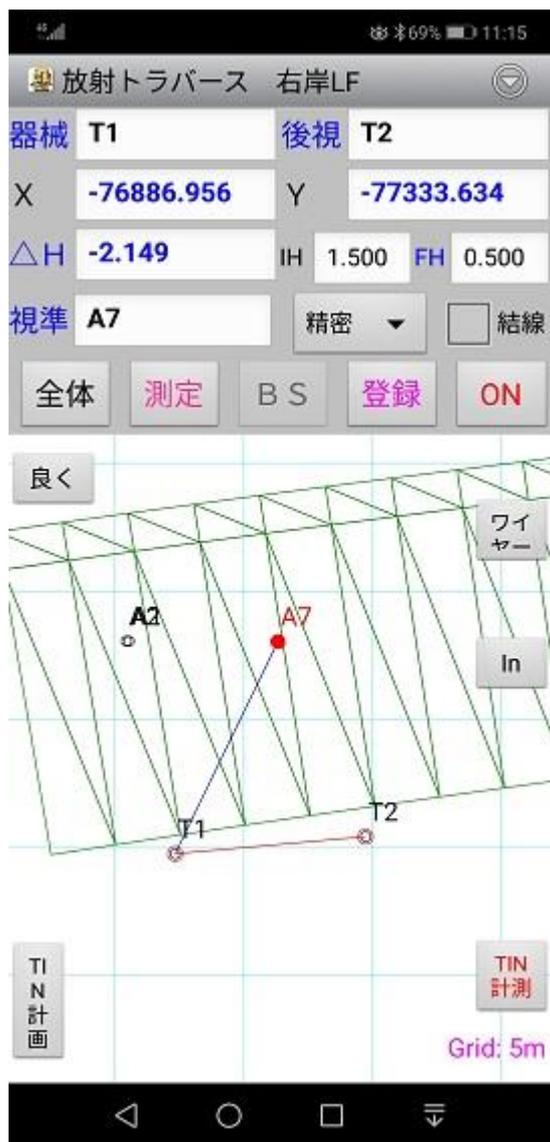
LandXML から読み込んだ場合、座標データとして登録されません。
座標を含め、TIN のデータは別データとしました。
これにより、「TIN 計測」中でも TIN は表示されます。

基準点などは、「SIMA 読込」などで読み込んでください。

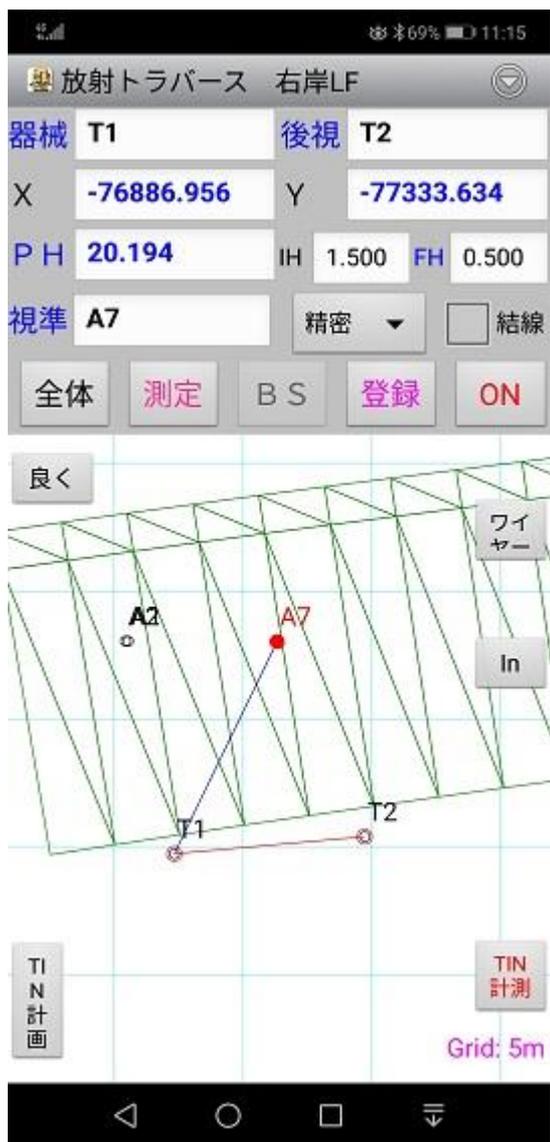


測定値の標高を表示

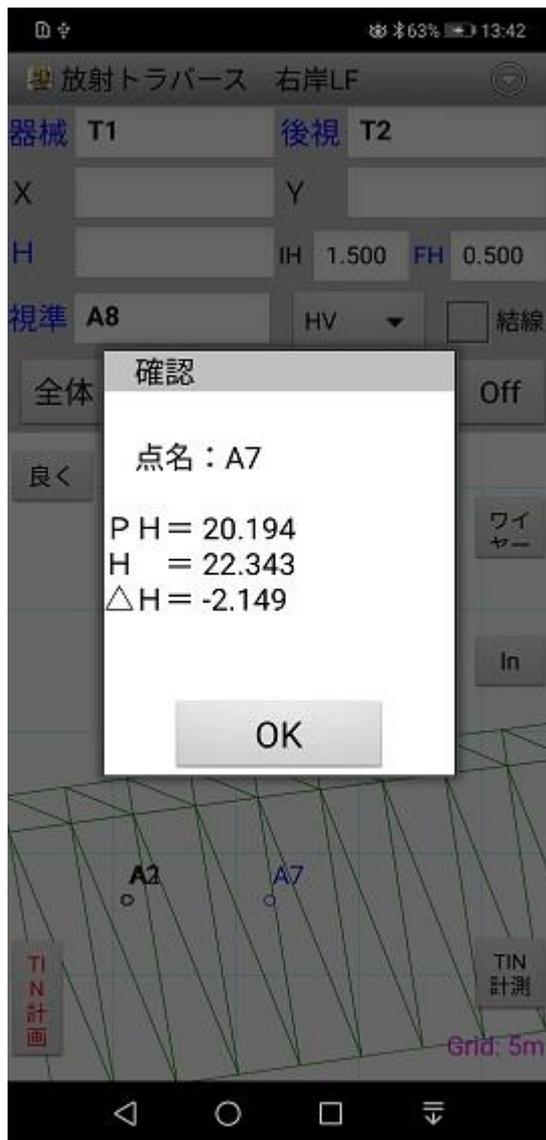
比高を表示



計画高を表示



マルチボタン「TIN 計画高」で、登録点を確認。



「点表示条件」の□標高にチェックを付けると、TIN の端点の標高を表示します。

2、SIMA 線データの読込時の色

「SIMA 読込」で路線の直線データを読込んだ場合に
線の色は、黒色に設定していましたが、今回から「条件設定」－「色の設定」の
“ライン”の色とします。

3、中間点、幅杭一括計算を修正

「中間点・幅杭計算」で、縦断曲線、片勾配、幅杭データが入力されている状態で
幅杭にチェックを付けて、幅杭を「一括」計算した場合にループし
計算できない場合がありますので修正しました。
計算できないのは、路線の始点の追加距離が例えば -5.000 で
-5.000 の位置の計算が出来ないので
ここでループし、止まっていました。

4、後方交會に、器械点リスト

要望がありましたので、追加しました。

“点 A”、“点 B”の文字をタップすると、器械点リストが表示されます。